

ニガウリ (ウリ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
タネまき	定植										

熱帯アジアの原産なので、高温や乾燥に強い野菜です。中国では重要野菜であり、東南アジアやアフリカなどでも栽培されています。

日本では、沖縄や鹿児島で古くから栽培されてきましたが、その他の地方ではあまり見かけない野菜です。

名前のように、苦みが強く、独特の味がするウリです。丈夫なので作りやすく、鉢植えやプランター栽培にも適しています。

品種

果実の細長い「長果種」と、ずんぐりとした「短果種」とがあり、果皮の緑色のものと、緑白色のものがあります。

栽培ポイント

土質は特に選ばませんが、日当たりがよく、風通しのよい場所で栽培します。

タネまきは、気温が十分に上がってくる4月中～下旬から、5月上旬になってからが適期です。じかまきせずに、少し早めにポリ鉢にタネをまいて育苗し、苗を植えてもかまいません。

畑にはあらかじめ、1㎡あたり2握りの苦土石灰をまいて耕しておきます。肥料を効率よく、長期間効かすために、穴に元肥えを入れてから高めに土を盛り上げた“くらつき”をして、ここにタネまきや苗の植えつけをします。

本葉5～6枚で摘芯し、子づるを出させます。子づると、子づるから出る孫づるに果実をたくさんつけるようになります。摘芯後、支柱を立ててネットを張り、つるをからみつかせます。

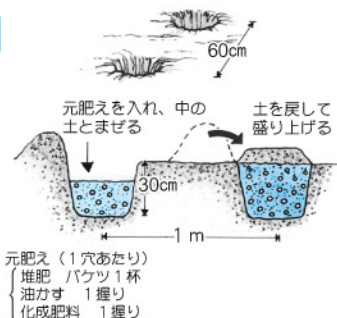
実がなり始めたら、開花後15～20日を目安に、若いうちにどんどん収穫します。

栄養

ビタミンCが特に多く、ミネラル類では主にカリウムが含まれています。

1 くらつき

タネまきや植えつけの1週間くらい前に、60cm間隔に直径、深さともに30cmの穴を掘って、元肥えを入れ、掘り上げた土を戻して高めに土を盛る。



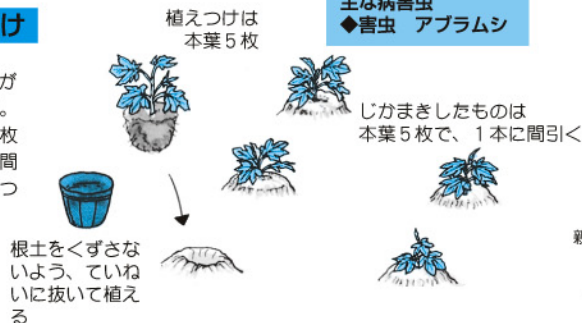
2 タネまき

くらつきに3粒ずつタネをまき、1cmぐらい覆土する。ポリ鉢まきは、暖かいところにおいて管理すれば、早まきがで、生育を速められる。



3 間引き・植えつけ

じかまきしたものは、本葉が5枚になったら1本に間引く。ポリ鉢まきしたものは、本葉2枚で2本に、3～4枚で1本に間引き、5枚になったら、くらつきをつくり植える。



主な病害虫
◆害虫 アブラムシ

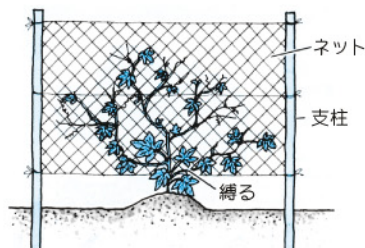
4 摘芯

本葉4～5枚のとき、芯をつみとる。芯が止まると下のそれぞれの葉のつけ根からつるが伸びて、そのつるから孫づるが伸びてくる。つるをたくさん出して、実をたくさんつけるようにする。



5 誘引

つるがよく伸びてからまるように、ネットを張り、つるをはわせる。初めのうちはよくからまないで、広げる方向に分散して、つるを縛る。



5 追肥

長い間、たくさん実をつけるので、ときどき株の周囲に化成肥料を軽く1握りぐらいずつまき、株元に土を寄せる。

